

Vol.15

がんばる ファーマー応援記

夕狩 森林ノ牧場株式会社
代表取締役 山川将弘さん



左から薄井委員、山川将弘さん、磯委員、林委員

今回は、夕狩地区の森林ノ牧場株式会社の上川将弘さんにお話を聞きしました。

山川さんは埼玉県出身。東京農業大学で放牧の酪農について研究をされた後、岩手県や京都府で経験を積み、その後那須町で経営を開始し、「森林の活用」を大きなテーマに、放牧での酪農業を展開しています。

▼初めに、酪農を始めたきっかけを教えてください。

昔から自然が好きで、田舎暮らしに憧れがあり、酪農に興味を持つようになりました。放牧をされる方は少ないですが、私の中で酪農といえば放牧という強いイメージがあり、学生時代から放牧での酪農の技術や経営について勉強してきました。

▼放牧での酪農経営をするために工夫していることはありますか？

放牧の魅力は、自然の景色や牛と直接触れ合うことができ、牛の可愛さや自然の癒しを肌で感じる点にあると思います。この魅力をお客様に伝えることが、経営を成り立たせる方法のひとつであると考え

ています。

地方では、今でこそ放牧の酪農をされている方が増えているようですが、私が学生時代は減少傾向にありました。牛が歩くことにエネルギーを使うので、乳量は減り、生産性が悪くなります。その点で一般的な酪農家より経営的に不利になってしまいう中で、どうすればよいか試行錯誤した結果、私は乳製品への加工（六次産業化）に力を入れています。



▼牧場内に牛は何頭飼育されていますか？

ジャージー牛を子牛も含めて



30頭ほど飼育しています。少数なので全ての牛に名前をつけており、個性の違いも把握しています。お客様にも「この牛はこういう性格なんですよ」とお話しすることができ、1頭を手厚く飼育できることが、少数での飼育の利点であると考えています。森林ノ牧場に来ていただいて、ぜひ可愛い牛達と触れ合ってください。

▼普段は主に何名で作業されていますか？

社員は私を含めて9名です。他にアルバイト3名と、派遣会社から障がい者を4名従業員と